

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 162-0825

所在地 東京都新宿区神楽坂2-4 結城ビル4F

評価機関名 特定非営利活動法人 NPO人材開発機構

認証評価機関番号 機構 02 - 005

電話番号 03-5206-7831

代表者氏名 理事長 水谷 正夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	甘利 てる代	福祉	H0303004
	②	水谷 正夫	福祉、経営	H0402001
	③	森本 真知子	福祉	H0602027
	④	加藤 信行	経営	H1101002
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	多機能型事業所			
	☒ 生活介護			
	☐ 自立訓練(機能訓練)			
	☐ 自立訓練(生活訓練)			
	☐ 宿泊型自立訓練			
	☐ 就労移行支援			
	☐ 就労継続支援(A型)			
	☒ 就労継続支援(B型)			
評価対象事業所名称	しごと場大好き		指定番号	1313100503
事業所連絡先	〒	182-0024		
	所在地	東京都調布市布田3-20-1		
	TEL	042-486-1022		
事業所代表者氏名	施設長 亀田 良一郎			
契約日	2024 年 10 月 25 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 12 月 11 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 1 月 8 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 11 月 21 日			
自己評価結果報告日	2025 年 1 月 8 日			
訪問調査日	2025 年 1 月 14 日			
評価合議日	2025 年 2 月 12 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	評価者は、利用者調査に先駆け、事業所・分場「国領」・出張所「カフェ大好き」に赴き、利用者に挨拶と後日の聞き取り調査のお願いをした。一方、利用者調査を補完する目的で家族にも、アンケート調査の協力をお願いした。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- { ☐ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 3 月 31 日

事業者代表者氏名 社会福祉法人調布を耕す会 理事長 原良男 印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ＜理念＞ 1) 障害のある人たちが「地域の中で生き生きと 豊かにゆかいにゆうゆうと」暮らすことのできる「場」や仕組みを作ること を使命と考えている。 2) 関わる全ての人が誇りの持てる多様な福祉事業を行う。 3) 一人ひとりのニーズに応える、選択可能な多岐にわたるサービス提供を目指す。 4) ライフステージに合わせた生活の質の向上を目指し、柔軟で幅の広いサービスを提供する。 5) 利用者が自ら考え、自ら決定し、自ら行動することを基本にしたサービスを提供する。 6) 透明性のある健全な経営を行います。 ＜サービス提供の考え方＞ 利用者ニーズを掴むためには、個性や意思を尊重して本人に向き合い、家庭での日常も把握してアセスメントやモニタリン グする事が大切だと考えている。その為には家族と信頼関係を築いて連携する事が欠かせない。そこで、連絡帳などの 日々のやり取りの他に毎月家族に集まってもらい予定の確認や方向性の意見交換、職員との懇談等を行っている。また、 各種のプロジェクトなどにも希望家族に参加してもらい将来を共に考えている。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 期待する専門性は障害特性の理解、社会資源の活用、記録作成能力、身体介護スキル、コミュニケーションスキル、傾聴 スキル、企画立案スキル。誠実に利用者に向き合い気付きと想像力をもってニーズに応える努力のできる人が事業所の求 める人材。役割は利用者の自己実現へのサポートと地域との関係を築く事、利用者の生活基盤が安定して供給できるよう に10年、20年先を見据えて法人運営にも取り組む。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 福祉のプロだという意識を持って、何事も前向きに取り組んで欲しい。生計を立てる手段としての職業という意識を越えて、 ライフワークとしての職業意識を持ってほしい。利用者の自己実現の為に施設内に止まらず、地域を変えていこうという想 いを持って欲しい。

調査対象

調査時点で46名の利用者、男性27名（平均年齢36歳）、女性19名（平均年齢34歳）を対象とした。知的障害者が中心だが、車いすの利用者もいる。

調査方法

4名の評価者が2日間に分けて、3つの活動拠点で聞き取り調査を行った。1名は、欠席のためアンケートを実施した。

多機能型事業所全体

利用者総数

共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者総数に対する回答者割合（％）

	46	
アンケート	聞き取り	計
1	45	46
1	45	46
2.2	97.8	100.0

生活介護

利用者総数

共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者総数に対する回答者割合（％）

	20	
アンケート	聞き取り	計
1	19	20
1	19	20
5.0	95.0	100.0

入力不要
自立訓練（機能訓練）

利用者総数

共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者総数に対する回答者割合（％）

アンケート	聞き取り	計
		0
		0
0.0	0.0	0.0

入力不要
自立訓練（生活訓練）

利用者総数

共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者総数に対する回答者割合（％）

アンケート	聞き取り	計
		0
		0
0.0	0.0	0.0

入力不要
宿泊型自立訓練

利用者総数

共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者総数に対する回答者割合（％）

アンケート	聞き取り	計
		0
		0
0.0	0.0	0.0

入力不要
就労移行支援

利用者総数

共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者総数に対する回答者割合（％）

アンケート	聞き取り	計
		0
		0
0.0	0.0	0.0

入力不要
就労継続支援（A型）

利用者総数

共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者総数に対する回答者割合（％）

アンケート	聞き取り	計
		0
		0
0.0	0.0	0.0

就労継続支援（B型）

利用者総数

共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者総数に対する回答者割合（％）

	26	
アンケート	聞き取り	計
1	25	26
1	25	26
3.8	96.2	100.0

利用者調査全体のコメント

「現在利用している事業所を総合的にみて、どの程度満足していますか」との質問に対して、「大変満足」23名(50%)、「満足」11名(24%)、「どちらともいえない」5名(11%)、「不満」2名(4%)、「無回答・不明」は5名(11%)であった。満足群は34名で全体の74%を占めている。「困ったとき職員は助けてくれている」「身の回りにある設備は安心して使える」「他の利用者との交流など、仲間との関わりは楽しい」「生活スペースは清潔で整理された空間になっている」の質問では満足度が高かった。また、「困った時に職員以外の人にも相談できることをわかりやすく伝えてくれている」「利用者の計画やサービス内容についての説明はわかりやすい」の質問では、満足度があまり高くなかった。コメントとして、「これからもここで働きたい」「意見を聞いてもらえている。詳しく話をしているし、楽しく話をしている」「活動が楽しい。毎日通ってきて楽しい」、生活介護では「職員やメンバーには満足している」「いやな気持ちになったことがない」などの声があがっている。また、就労B型では「楽しいことをしてモチベーションが上がるのがしたい」といった声も一部に聞かれた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
コメント				

1. 利用者は困ったときに支援を受けているか	37	4	4	1
「あなたが困ったとき、職員は助けてくれていると思いますか」との質問に、37名(80%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」「いいえ」にはともに4名(9%)の回答があった。「仕事の事や片づけなど、わからないことは聞いている」「相談事は、相談室で話をしている」「先輩に細かく助けてもらっている」「エレベータの乗り降りやトイレで困った時助けてくれる」「すぐ来てくれる」などのコメントがあがっている。また、「助けてくれるかどうか、どちらとも言えない」といった声も一部に聞かれた。				
2. 事業所の設備は安心して使えるか	37	5	0	4
「あなたの身の回りにある設備は安心して使えますか」との質問に、37名(80%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」には5名(11%)の回答があった。「危ないことはない」「使えている。歩行のアドバイスをもらっている」「今のところは危ないと思うものはない」「安心、けがはない」「全体にきれい」などのコメントがあがっている。				
3. 利用者同士の交流など、仲間との関わりは楽しいか	36	2	4	4
「あなたにとって、しごと場大好き他の利用者との交流など、仲間との関わりは楽しいですか」との質問に、36名(78%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」は2名(4%)、「いいえ」には4名(9%)の回答があった。「福祉まつりに行った。いろんな事業所が出ていて、見に行ったり、買ったりした」「新しい利用者と一緒に帰っている」「メンバーと牛乳パックの仕事で一緒に働くのが楽しい」などのコメントがあがっている。また、「メンバー(利用者)との交流はあまりない」といった声も一部に聞かれた。				
18. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	36	3	1	6
「あなたは、しごと場大好きな生活スペースは清潔で整理された空間になっていると思いますか」との質問に、36名(78%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」は3名(7%)、「いいえ」には1名(2%)の回答があった。「整理整頓はされていると思う」「掃除、みんなですます」「自分でも掃除をするのできれいになっている」「きれいに拭いている」などのコメントがあがっている。				
19. 職員の接遇・態度は適切か	34	7	1	4
「あなたは、職員の言葉遣いや態度、服装などが適切だと思いますか」との質問に、34名(74%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」は7名(15%)、「いいえ」には1名(2%)の回答があった。「優しく接してくれる」「最初のころはきつuitと感じたことがあったが、最近はない」「丁寧で優しい」「服装に問題はない」「ちゃんとしている。キツイ人はいない」などのコメントがあがっている。また、「優しく話してくれる時もあるが、そうでないこともある」といった声も一部に聞かれた。				
20. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	33	3	3	7
「あなたがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか」との質問に、33名(72%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」「いいえ」にはともに3名(7%)の回答があった。「動けなくなっている人がいると、職員が様子を見に行っている」「具合が悪くなったとき、職員に家へ送ってもらい、安心できる」「対応してくれる」「自分では言えないけど、職員が大丈夫って聞いてくれる」「(具合悪い時は)言える」などのコメントがあがっている。				
21. 利用者同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	26	3	2	15
「あなたは、利用者同士のいさかやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか」との質問に、26名(57%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」は3名(7%)、「いいえ」には2名(4%)の回答があった。「けんかはときどきあるが、職員が間に入ってくれる」「みんな仲良し」「メンバーが騒いだり、パソコンで大きな音を出すと職員が注意してくれる」「聞きに入ってくれている」「(いさかやがあったときは)止めてくれる」「職員が間に入ってくれる時もあるが、気づかない時もある」などのコメントがあがっている。				

22. 利用者の気持ちを尊重した対応がされているか	34	4	0	8
「あなたは、職員があなたの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか」との質問に、34名(74%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」には4名(9%)の回答があった。「相談はできている。話ができるから良い」「大切にしてくれると思う」「自分の仕事を職員は大切にしてくれている」「すごくそう思う」「好きな作業をやれている」などのコメントがあがっている。また、「大事にしてくれる部分もあるが、どちらとも言えない」といった声も一部に聞かれた。				
23. 利用者のプライバシーは守られているか	29	3	1	13
「あなたのプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか」との質問に、29名(63%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」は3名(7%)、「いいえ」には1名(2%)の回答があった。コメントは少なく、「職員が様子を見て対応することで体調のことで失敗しなくなった」「守ってくれている」などのコメントがあがっている。また、「守ってくれてないと思う」「わからない」といった声も一部に聞かれた。				
24. 個別の計画作成時に、利用者の状況や要望を聞かれているか	27	1	3	15
「あなたのサービスに関する計画(目標)を作成したり見直しをする際に、しごと場大好きはあなたの状況や要望を聞いてくれますか」との質問に、27名(59%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」は1名(2%)、「いいえ」には3名(7%)の回答があった。「面談は1年に何回かある。(こういうことをやれたら)など希望を伝えている」「どんなことをしたいとはっきり言える」「面談している。自分の気持ちを言っている」などのコメントがあがっている。また、「個別支援計画がわからない」といった声も一部に聞かれた。				
25. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	18	9	2	17
「あなたの計画やサービス内容についての説明は、わかりやすいと思いますか」との質問に、18名(39%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」は9名(20%)、「いいえ」には2名(4%)の回答があった。「計画書を見て説明を受けている。相談支援の人ともしている」「目標シートがあって書いている」「3月と10月に面談をしている」などのコメントがあがっている。また、「してくれない」「どちらとも言えない」「わからない」といった声も聞かれた。				
26. 利用者の不満や要望は対応されているか	32	6	2	6
「あなたが不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか」との質問に、32名(70%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」は6名(13%)、「いいえ」には2名(4%)の回答があった。「不満は出てくることもあるが、その都度、納得いくように説明してくれる」「相談できる職員がいる」「きちんと話を聞いてくれている」「言えばちゃんとやってくれる」などのコメントがあがっている。また、「要望はあまりない。多少あっても、自分からは言えない」といった声も一部に聞かれた。				
27. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	15	9	6	16
「あなたが困ったときに、職員以外の人(役所や第三者委員など)にも相談できることをわかりやすく伝えてくれましたか」との質問に、15名(33%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」は9名(20%)、「いいえ」には6名(13%)の回答があった。「デイサービスの人も話をしている」「他のメンバー(利用者)に相談している」などのコメントがあがっている。また、「聞いていない」「わからない」といった声も聞かれた。				

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
4.【生活介護】 事業所での活動は楽しいか	17	1	1	1
「しごと場大好きでの活動は楽しいですか」との質問に、17名から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」「いいえ」にはともに1名の回答があった。「みんなでやすり掛けしたり、粘土を使ったりしている。それが楽しい」「作業が楽しい」「牛乳パックの仕事は楽しい」「お仕事、好き」「身体を動かすのが好き、unoをするのが得意」などのコメントがあがっている。また、「楽しくない」といった声も一部に聞かれた。				

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
16.【就労継続支援B型】 事業所での活動が働くうえでの知識の習得や能力の向上に役立っているか	23	2	0	1
「しごと場大好きでの活動は、あなたの就労に向けた知識の習得や能力の向上に役に立っていると思いますか」との質問に、23名（88%）から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」には2名（8%）の回答があった。「調理で混ぜる仕事が上手になってきた。面白い」「仕事は役に立っている。仕事大好き。上手になっている。グループ活動も」「調理やカフェ等の仕事ができるようになっていことに感謝している」「カレーのお皿を運ぶ仕事が好き」などのコメントがあがっている。また、「よくわからない」といった声も一部に聞かれた。				
17.【就労継続支援B型】 工賃等の支払いのしくみは、わかりやすく説明されているか	15	2	2	7
「あなたは、工賃等の支払いのしくみについて、職員の説明がわかりやすいと思いますか」との質問に、15名（58%）から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」「いいえ」にはともに2名（8%）の回答があった。「10日に給料とボーナスをもらってうれしかった」「工賃は月に1回支給される」「3ヵ月休まないと皆勤賞がでるので頑張っている」「ボーナスが出てよかった。仕事をするのが楽しい」などのコメントがあがっている。また、「説明がわかりやすいかどうか、どちらとも言えない」「わからない」といった声も一部に聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評価(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評価(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	
	評価(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
	カテゴリ1の講評	
	法人は障害のある人たちが住み慣れた地域で自己実現できる環境づくりを使命としている 社会福祉法人調布を耕す会(以下、法人)は1993年任意団体として発足し、2003年に法人を設立して小規模通所授産施設「しごと場大好き」(以下、事業所)を開所した。法人の基本理念は障害のある人たちが「地域のなかで生き生きと、豊かにゆかいにゆうゆうと」暮らすことのできる環境づくりを目的としている。法人は事業所と「分場国領」で生活介護事業を、「布田(主たる事業所)」と「カフェ大好き」で就労継続支援B型事業を運営し、多様な福祉事業を展開することで、誰もが豊かな人生を享受できる地域の実現を目指している。 施設長は利用者家族との繋がりのある業務運営で事業所課題の実現に取り組んでいる 法人は綱領で基本理念、職員行動規範を定めている。事業所は職員の役割と課題を職務分担表で明確にして、利用者が自ら考え、自ら決定し、自ら行動できるサービスの提供を目指している。施設長は利用者家族との繋がりを大切に、毎月、ファミリー(家族会)を開いて事業の方向性等について意見交換を行い、隔月に開催されるファミリー懇談会では職員とファミリーで自由な意見交換を行っている。毎月の職員会議で課題の確認と検討を行い、翌日には非常勤職員に周知することで一体感のある業務運営に取り組んでいる。 案件は将来構想プロジェクトで検討し、関係者間の合意形成を重視した手順で決定される 隔月で、将来構想プロジェクト(以下、PJ)を開催して重要課題の進捗確認と案件の検討が行われている。PJは職員、ファミリー、法人役員、法人の運営を支援する「支える会」で構成され、各案件に対する認識の共有化と合意形成が事前に図られている。重要案件は職員会議・各種委員会での検討を経て法人事務局が提案し、理事会で決定される。職員には毎朝夕の打合せや職員会議などで伝えられる。家族にはファミリーで報告され、利用者には毎朝夕の全体ミーティングで伝えられる。年6回発行される会報「耕す会」で理事会の活動が報告されている。	

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 カテゴリー2		
サブカテゴリー1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6		
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ●あり ○なし ○非該当 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ●あり ○なし ○非該当 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ●あり ○なし ○非該当 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ●あり ○なし ○非該当 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ●あり ○なし ○非該当 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ●あり ○なし ○非該当 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ●あり ○なし ○非該当 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ●あり ○なし ○非該当 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ●あり ○なし ○非該当 評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ●あり ○なし ○非該当 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ●あり ○なし ○非該当 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ●あり ○なし ○非該当 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ●あり ○なし ○非該当 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ●あり ○なし ○非該当 評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ●あり ○なし ○非該当 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ●あり ○なし ○非該当 カテゴリー2の講評 福祉作業所等連絡会との連携により情報の収集と福祉を耕す環境作りに取り組んでいる 事業所は日常と週間単位で捉えた支援により利用者ニーズを把握し、利用者自らが運営するメンバー会議の定例化を図っている。職員会議で情報を共有し、目指す方向性と今後の予定を確認して事業所の運営を進めている。施設長は市内の福祉作業所等連絡会の運営に設立時から加わり、行政や他施設との連携による情報収集と福祉活動に取り組んでいる。月次報告書で経営状況の把握と検討を行って財政の安定化に努めている。将来構想PJで担当者を決めた課題確認を行い、毎年開催される総括会議で年間の活動を総括して次年度方針を定めている。 グランドデザインの実現を目指して、長期・中期・単年度の計画が策定されている 法人は利用者のライフステージに合わせた生活の質の向上を目指した幅広いサービスの提供を基本に置いたグランドデザインを描いている。利用者を中心に「愉快地に、働き、暮らし、社会と繋がる」世界で、その実現を目指して将来構想PJを立ち上げ10年単位での長期計画を策定し、3年単位での中期と単年度計画で段階的な実現を目指して予算措置を講じている。長期は経営課題を「サービス向上、地域貢献、財政安定、人材育成、組織強化」とし、事業所の課題を明確にしている。年1回の将来構想拡大PJで課題検証を行い、計画の実現性を高めている。 将来構想PJでの課題確認と事業進捗管理により着実な計画の実行に取り組んでいる 事業計画の進捗状況は毎月の各種定例会で報告され、計画実行への具体策の検討が行われている。計数管理は月次報告書で、職員会議とファミリーで事業報告が行われ、将来構想PJで項目毎に課題確認を行い、活動方針を決めている。各会とも詳細な議事録が作成され、進捗状況一覧とスケジュール管理により計画実行に向けての「見える化」が図られている。将来構想拡大PJと総括会議で年度計画の総括と次年度方針の検討が毎年行われるが、施設長は長期計画の積み残し課題の解決を図るために将来構想PJの課題解決機能の充実を検討している。		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当

評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー3の講評		
職員行動規範の実践により、笑顔の溢れる「大好き」な事業所の実現に取り組んでいる 法人はホームページで職員行動規範を公表している。施設長は規範にある「利用者の基本的人権・個性・意思を尊重し、利用者の自己実現を目指して常に内なる力を引き出す視点を持ち利用者自らが出来ることは自らがやれるようなサポート」をミーティング、定例会、面談の場で職員に求めている。職員の権利擁護意識は高く、支援の場では相手を尊重した呼称や伝え方を意識し、間違った呼称やぞんざいな言葉使い、碎け過ぎたやりとりに対して声を掛け合い改善に努めている。現状に満足することなく、多くの笑顔が引き出せる支援を行動の基本にしている。 みんなを守ろう委員会が中心となり、研修や自己点検による権利擁護に取り組んでいる 苦情解決制度は重要事項で説明し、利用者の意向は日々の振り返り等で対応している。事業所は家族(ファミリー、母親の「こぶしの会」)との繋がりが深く、苦情は即日対応での解決を基本にしている。第三者委員による「お話聞きますよ」では、家族の悩み事も相談されている。現場職員と法人を支援する「支える会」の役員とで「みんなを守ろう委員会」が組織され虐待防止に取り組んでいる。グループディスカッション研修を実施して支援の成功例を共有し、職員セルフチェックシートで日常の振り返りを行い、アンケート結果に基づく改善を実施している。 連絡会での福祉作業所活動を通して福祉事業を耕し、地域の福祉課題に取り組んでいる 事業所は「透明性のある健全な経営」と「地域に開かれた信頼される法人」を運営方針としている。ホームページをリニューアルして利用者の活動を見える化し、年次レポート、会報を公開している。担当者を決めて実習生、見学者を受け入れ、市民交流の場として餅つき会、コンサート、大好き市を実施している。施設長は福祉作業所等連絡会で作業所のネットワーク作りと行政とのタイアップ活動に取り組んでいる。また、市民の要望に応えた地域貢献への取組みを課題とし、市内社福の地域公益活動連絡会で食品ロスを減らすフードドライブ活動に参加している。		

4			リスクマネジメント		カテゴリー4
サブカテゴリー1(4-1)					
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる				サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる				評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目				
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている				○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている				○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している				○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる				○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる				○非該当
サブカテゴリー2(4-2)					
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている				サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている				評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目				
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている				○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している				○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている				○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している				○非該当
カテゴリー4の講評					
リスクマネジメント委員会が中心となって安心安全な事業所運営に取り組んでいる 長期計画策定時に分析を行い、リスクの洗い出しと課題整理をしている。施設長が参加するリスクマネジメント委員会が毎月、「死亡事故、重症事故、無断外出、感染症の発生、事件性のあるもの、トラブル発生が予測されるもの、施設運営上の事故発生、異物混入」の項目別に事故とヒヤリハットの分析を行い対応と予防策を検討している。また、委員会の運営、報告制度、業務手順書の整備、ケース記録の作成と活用、家族とのパートナーシップ、研修の6本の柱について進捗確認と最高レベル5を基準としたレベルチェックを行いリスク管理に取り組んでいる。 予測される事態を想定した実践的なBCP(事業継続計画)訓練の実施が期待される 感染症BCPとは別に気候変動に対応した自然災害時BCPを策定している。基本方針を定めBCP推進チームによる可能な限り必要な業務が提供できる体制を目指している。防災計画に基づき避難誘導訓練、送迎訓練、通信訓練を行い、BCPについては読み合わせ訓練を実施している。福祉避難所の登録を行い、福祉災害ネットワークに加盟して災害時の情報共有を図り、停電時の蓄電式発電機を導入している。事業所は分場国領・カフェ大好きと分散しており、BCP訓練については実際に発生が予測される事態を想定した実践的な訓練の実施が期待される。 デジタル情報の効率的活用と情報取り扱いルールの策定を課題としている 紙情報は項目毎にファイルで保管され、利用者の電子情報は共有フォルダーを作成してカテゴリー分けをして整理されている。職員は共有PCで必要な情報を閲覧できる。事業所はIT導入補助金を活用してケース記録のデジタル化に取り組み、業務の効率化と記録保全を図っている。ケース記録の入力により利用者サービスに必要な各種データの分析が可能となる情報通信システム構築への検討を進めている。個人情報保護規程は整備されているが、情報のデジタル化に不可欠なUSB情報の管理などを定めて情報取り扱いルールの整備を課題としている。					

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		6/12
評価項目1		
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	☐ 非該当
評価項目2		
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
評点(●●)		
評価	標準項目	
☐ あり ☒ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	☐ 非該当
評価項目3		
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
評点(〇●●●)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	☐ 非該当
評価項目4		
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		
評点(〇〇〇●)		
評価	標準項目	
☐ あり ☒ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	☐ 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評		
事業所の求める人材育成に必要なキャリアパスと育成計画の策定が期待される 福祉業界共通の人材不足に対してハローワーク、ホームページ、人材情報誌を活用して職員の募集を行っている。また、採用に際しては現場体験と職員・利用者の意見を聞き、ライフワークとしての福祉プロ意識が持てる人材を求めている。小規模事業所のため異動や配置転換に制約があるなかで、施設長は権限が委譲できる次世代人材の育成を意図し、面談や職員会議での話し合いを通して相互理解のできる人間関係を構築するとともに、研修計画を着実に実施することで、職員のキャリアパスと人材育成計画の策定に繋げていく取り組みを考えている。 リモート研修の導入により職員の専門性と利用者サービス向上に取り組んでいる 事業所は「障碍特性の理解、記録作成能力、身体介護、コミュニケーション・傾聴スキル」などの専門性を高めるためリモート研修を導入している。研修が受講しやすいように職員配置を工夫し、応援体制を組んでいる。研修報告書の提出を義務化し、職員会議、ファミリーで報告を行っている。また、テーマを決めて受講後にグループワークを行い困難事例について意見交換する内部研修を実施している。業務と関係する自己研鑽研修は報告書の提出を以って勤務扱いとし、研修体制の充実に取り組んでいる。リモート研修計画が人材育成の柱として機能している。 処遇改善と働き方改革が行われているが、職員からは職場の環境改善を望む声も多い 事業所は都の制度を活用した職員の処遇改善と働き方改革に取り組んでいる。福祉職員に対する処遇改善加算を取得して賃金改善を行い、宿舍借り上げ支援事業で住居を提供し、居住支援特別手当を該当する支援員に支給している。働き方改革では残業の削減に努め、残業時間に制限を設けて前日申請とし、ノー残業デイを定めている。夏休みなど休暇の取りやすさが検討されているが、職員からは静かに休憩がとれる場所を望む声も多い。事業所スペースに制約があるものの、職員が落ち着いて休憩あるいは食事がとれる時間が確保できる場所の工夫が望まれる。		

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
		サブカテゴリー1(7-1)	
		事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
		評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
		前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 事業所は第1次長期計画(2016年～2025年)をベースにした第5期中期計画(2022年～2025年)で、ICT(情報通信技術)の活用による業務の効率化を年度課題としている。本部の会計業務と事業所記録のデジタル化を効率化の目標としている。事業所記録は手書きであるため読みづらく、記録に多くの労力を要して時間外勤務の要因となり、情報共有化の面でも課題であった。都のIT導入補助金を活用して、パソコンの購入と業務管理ソフトを導入してケース記録のデジタル化を実施した。デジタル化により記録が読みやすくなり、パソコン内で共有フォルダーとすることで情報の共有化と記録の保全化が進み、利用者サービスの向上に繋がっている。事業所は2024年度の方針で、ケース記録のデジタル化による汎用性の拡張を検討している。ケース記録に入力することにより、日誌等の利用者サービスに不可欠な各種情報にも自動的に情報が伝達され、利用者の障害特性等の各種の属性分析に必要なデータが短時間で取り出せるシステムの構築を検討している。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 ケース記録の業務管理ソフト利用により業務の効率化と記録保全に効果があったが、事業所はまだ不十分との認識を示している。事業所が目標とするところは、利用者サービスに不可欠な情報がケース記録のデジタル化により日誌等の各種情報に自動的に記録され、利用者の属性情報等が瞬時に把握でき、サービス提供に必要な分析データとして活用できる汎用性のあるシステムの構築である。専門業者によるシステム構築は費用的に難しく、現システムの機能強化を検討しているが、事業所内に専門知識を有する人材がいないため、システム開発に必要な知識を有し、助言できるボランティア人材を求めている。法人は利用希望者が増えるなか、事業所規模の拡大を考えているが慢性的な福祉人材不足は今後とも続く予測され、業務の効率化は必要不可欠となる。今後の事業展開を円滑に進めるためにはシステム開発のグランドデザインが必要になるものと思われる。専門知識を有する人材の確保が期待される。			

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

法人は工賃アップを第1次長期計画(2016年～2025年)の課題としている。事業所は年金を利用すればグループホームでの生活ができる水準として月額50,000円を到達目標に、35,000円の達成を目指している。生産活動は広範囲に亘り、行政からの受託業務(清掃業務等)、自主製品販売事業(陶芸・組みひも・ポストカード・絵画等)、カフェ大好きでの喫茶事業、食品加工事業(ジェラード製造等)がある。受託事業は地域貢献につながり、利用者の仕事に対する誇りと責任をつちかうことができるため施設外就労の事業にも積極的に取り組んでいる。新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ工賃もイベントでの外販が復活し、各事業とも順調に推移した結果、都の算出方法で36,000円を達成している。事業所は無認可作業所「しごと場大好き」を立ち上げて30年以上経過し、持続可能な工賃体系に作り替える時期に差し掛かっているとの判断があり、各現場を代表する職員で構成する新たな委員会をスタートさせる予定だ。

目標の設定と取り組み	☐ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☒ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

事業所名「しごと場大好き」が示すように、利用者は「いきいきと、ゆかいに」しごとに取り組んでいる。利用者からは「ボーナスが出てうれしい、給料明細書での施設長からの一言メモを見るのが楽しみ」という声が聞かれる。一言メモは、施設長の手作りで、利用者一人一人ごとに、その人に合う内容で工夫されており、利用者が担当する「しごと」に対する感謝の言葉が述べられ、利用者の励みとなり、家族からも感謝されている。一方、家族からは事業所への感謝の気持ちと給料は十分と思っているので工賃アップのために無理をしないで欲しいという気遣いの声がある。施設長は福祉作業所等連絡会での活動により行政との連携のもと受託事業の拡大に取り組み、新たな業務を引き受けて工賃アップを目指している。職員からは工賃アップのために、職員の負担が増えているとの意見も一部ある。今後については、利用者の社会性や生活力向上と工賃アップへの取り組みで、バランスある支援を深めていきたいとしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目 (カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当	
サブカテゴリー1の講評			
広報誌やホームページで情報発信をしており、「年次レポート」など冊子にまとめている 事業所のサービス情報は法人ホームページのほか、法人情報を記載する「耕す会」や事業所情報を記載する「大好き」の会報を通じて発信を行っている。会報は調布市などの行政機関、福祉関係機関、特別支援学校、市議、支える会会員などに配布している。また1年間の事業報告をまとめた「年次レポート」や後援会(調布を耕す会を支える会)の事業報告も冊子にしている。さらに、SNSでの発信が一般化している現状を踏まえ、事業所ではその活用を検討しており、ホームページ上の動画の更新や新たな商品紹介など、さらなる取り組みを必要としている。 ホームページに動画を載せ、事業所の活動内容や雰囲気が伝わるよう工夫をしている ホームページでは作業やイベントの様子を写真で紹介しているほか、事業所、分場、カフェ、グループホームの4種類の動画も掲載している。これらの動画は、家族から「内部の様子が知りたい」という要望に応えるために制作されたもので「いかにわかりやすく、ありのままを伝えられるのか」を重視している。室内の雰囲気や調理・清掃作業・自主製品・アートなどの作業の様子、余暇活動の様子が紹介されており、職員の様子も伝わるような内容になっている。ホームページからは、年次レポートや「耕す会」「大好き」の会報もダウンロード可能となっている。 通所した際のイメージが湧くように見学は多様な作業がある日に調整している 利用希望の問い合わせは特別支援学校からが多く、毎年度、見学や実習の受け入れを行っている。特別支援学校の他にも調布市の障害者地域生活・就労支援センターからの問い合わせもある。見学対応は担当が行い、事業所の様子をより理解してもらうため、多様な作業を行う日に調整している。見学当日は1時間ほどかけて室内を案内し、実際の作業風景を見ってもらうことで通所後のイメージを持ちやすいよう工夫している。利用希望者は、特別支援学校を通して2週間程度の実習を行う流れとなっており、実習後はその内容を「実習記録」にまとめている。			
	サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
評価項目1 サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している	○非該当	

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、利用者の不安やストレスが軽減されるように支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
利用開始前に面談を行い、「新メンバーへのお願い」など事業所ルールを説明している 利用開始前の3月には三者面談を実施し、契約手続きを行っている。契約書や重要事項説明書の説明に加え、負担金についても説明し、同意を得ている。また、事業所概要や年間予定、保護者会、後援会などの案内を行い、提出物やサインの依頼など必要事項をリスト化し、わかりやすいよう説明を行っている。利用者本人には「新メンバーへのお願い」として勤務時間や退勤時間、休憩時間、有休、給料など基本的なルールをルビつきで記載した書類を配布している。面談の内容は面談記録に記載して、個人ファイルに保管している。 サービス開始時は職員配置や座席など臨機応変に対応し、過ごしやすいよう配慮している 利用開始直後は「環境に慣れるまでは落ち着かず、不安定になる場合が多い」としており、職員配置を手厚くするなどの対応を行っている。事業所では、日々の様子を踏まえて座席や仕事内容を随時見直し、臨機応変に対応することで利用者が過ごしやすい環境づくりに努めている。また、実習時の記録を振り返り、適切な接し方や作業の向き不向きを見極め、支援のポイントや支援方法のヒントを見出すように取り組んでいる。さらに面談記録やフェイスシート、特別支援学校からの個別移行計画など、様々な情報を参考に日々の支援に活かすようにしている。 退所後も希望に応じて相談に対応しており、行事の参加などつながりを継続している 昨年度の退所者は0名だったが、過去には就労や入院、入所施設移行などを理由に退所した例がある。その際は「終結記録」に退所日や退所理由などを記載しており、移行先の事業所等に利用者の情報を提供し、事前に丁寧な情報交換を行うよう努めている。退所後も希望に応じて相談対応を行っており、10年以上前に退所した人の中には現在でも事業所の各種行事へ参加している人もいて、つながりを継続している例もある。事業所では、家族の高齢化に伴う影響が利用者へも出始めているとしており、家庭訪問などを通じた状況把握の必要性も感じている。			
サブカテゴリ-3			
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	10/10
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		○非該当
評価項目2 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している		○非該当

評価項目3 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点(〇〇)	
評価		標準項目		
☒ あり ☐ なし		1. 利用者一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		☐ 非該当
評価項目4 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している				
評価		標準項目		
☒ あり ☐ なし		1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		2. 申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している		☐ 非該当
サブカテゴリー3の講評				
「アセスメントシート」「健康シート」等を活用し、利用者情報を得るようにしている 事業所では、入所前の面談で配布する「フェイスシート」「アセスメントシート」に家族から詳細を記入してもらい、利用者の基本情報を把握するようにしている。また、既往症や医療機関、服薬情報を記入する「健康シート」を提出してもらい、健康状態の把握にも努めている。「健康シート」は事業所の看護師からの提案により、定期的な見直しを図るようにしている。個別支援計画はこれらの基本情報に加え、日々の支援状況や実習時の記録、ケース記録などを参考に作成しており、事業所では「個別支援計画はすべての基本である」と位置づけている。 個別支援計画の策定は全職員が携わり、非常勤職員にも周知できるよう工夫している 個別支援計画の策定に当たっては、全職員が携わり、計画内容を共有しながら進めている。策定時には「PDCAによる個別支援計画作成手順書」を参考にしており、「正確なアセスメントと本人、家族の確認が必要」「作成者の心情を挟まず、事実を把握した上でまとめる」など具体的なポイントを示している。個別支援計画は半年に1回モニタリングを実施し、その内容を「モニタリング票」に記録している。また、非常勤職員にもわかりやすく、作業面・生活面の課題と支援内容を記した簡略版の「個別支援計画まとめ」を作成・配布し情報共有を図っている。 PCアプリやオンラインシステムを活用し業務の効率化や職員間の情報共有に努めている 日々の支援の記録はPCアプリを使用し「ケース記録」に入力しており、PC内の共有フォルダを通じて職員が確認できるようにしている。分場・カフェは立地が異なるため、オンライン会議システムを活用して毎日の振り返りを行い、その内容を「業務日誌」に記録している。また、週間の記録をまとめた「1週間のまとめ」を作成してケース会議で共有し、月1回の職員会議でも利用者状況を含めた情報の共有を図っている。事業所では、ICT化により記録や事務作業の効率化が進んだとしているが、PCソフト内の連動性などさらなる改善が必要と感じている。				
サブカテゴリー5				
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 利用者のプライバシー保護を徹底している				
評価		標準項目		
☒ あり ☐ なし		1. 利用者に関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、利用者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		2. 個人の所有物や個人宛文書の取り扱い等、日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮した支援を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		3. 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている		☐ 非該当

評価項目2 サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
写真、ビデオ、テレビの取材や撮影の外部提供は、その都度説明し同意を得ている 「施設サービス利用に係る情報提供同意書」において、利用者に関する情報を外部とやりとりする場合の使用目的の具体例を挙げ、契約時に利用者、家族に説明し書面で同意を得ている。写真、ビデオ、テレビの取材や撮影がある時などは、利用者、家族にお知らせを出して、その都度確認を取り了解を得ている。福祉体験実習を受け入れる場合、契約書において、個人情報の取扱いに関して、説明し、同意を得ている。個人ファイル等の個人情報に係る書類は鍵のかかるキャビネットに収納し、廃棄する時にはシュレッダーにかけて処理をしている。 排泄や更衣介助など身体介助での支援が必要な場合、同性介助で羞恥心に配慮している 事業所は利用者の生活面での支援が必要な場合には同性介助を基本としている。排泄介助や更衣介助に関して配慮と支援が必要な利用者の場合、職員が家族との連絡帳等からの情報を回覧、共有し、介助が必要な状況を見逃さず声掛け、羞恥心に配慮した支援を行っている。また、更衣室は男女別に用意され、個人ロッカーが使用でき、利用者は出勤すると個人の物をロッカーにしまっている。ロッカーの管理は利用者個人が行っているが、管理に心配のある時には支援している。また、個人の所有物については基本的に本人に許可を取った上で確認を行っている。 利用者が自ら考え、決定する事を尊重するために、コミュニケーションを工夫している 事業所は、支援の基本として利用者が自ら考え、決定し行動することを尊重するようにし、常に利用者の意向を確認しながら職員の誘導的な選択提供にならないように心がけている。利用者の意向をくみ取るため、ホワイトボードで筆談したり、写真や、文字カードで示してもらったり、利用者に合わせて工夫している。また、毎月ファミリーの会を開催し、その機会に家族から本人の意向を聞き出したりと多様な機会を設けて利用者の希望を聞き取れるようにしている。その上で事業所では20種類に及ぶ作業の組み合わせを提供し意向に添えるようにしている。		
サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当

サブカテゴリ6の講評

業務手順書など各種マニュアルを作成し、作業がスムーズに行えるようにしている

事業所は、各種業務手順書を作成し更新しながら、日々の各作業が安全に効率よくスムーズに進められるようにしている。基本的には一日の流れの手順書、及び月曜から金曜日までの一日ごとの業務の流れと担当する職員を明記した手順書を作成し、職員が自分の担当すべきことが、一日の流れの中で確認できるようになっている。事業所は多岐にわたる作業を利用者の意向や時々状態に応じて提供できるようにしているため、手順書の整備は欠かせないものとして作成している。その他、防災、感染症、事故対応マニュアル等が整備されている。

サービスの基本事項や手順運用の見直しは、年度末の総括会議の際に行っている

事業所は、朝・夕2回のミーティング、週末の会議や、月1回の職員会議を機会にサービスの基本事項の確認を行い、こまめに手順を見直し、最適なサービスが提供できるように努めている。また、日々の活動の間にサービスや対応に変更があれば、回覧を回し情報を共有し緊急に見直しできるようにしている。またサービスの基本事項や手順の定期点検の機会として、年度末の総括会議には全職員が参加し、全職員から意見があげられ、サービスの基本事項や手順運用の点検、見直しを行う事としている。

支援現場職員の意見を反映して、サービスの基本事項や手順を見直している

日常の業務の中で、ミーティングや週末の会議、月1回の職員会議で意見や提案があれば手順などをこまめに変更をおこなっている。日々の支援の途中で、情報共有をして対応を臨機応変に変更したりできるように、伝達事項を回覧するフォーマットを用意し、家族からの連絡や利用者の状況に対応できるようにした。フォーマットで伝達事項が確実に伝わる仕組みを作り上げたが、支援現場職員の意見を反映して作成されたものである。また、誤薬を防ぐために取り組んだ配薬の後の空袋の写真を残す取り組みも職員の意見を反映して実施されるようになった。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4											
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 26 / 26										
1 評価項目1 個別の支援計画等に基づいて、利用者の望む自立した生活を送れるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 個別の支援計画に基づいて支援を行っている ○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 利用者一人ひとりに合わせて、コミュニケーションのとり方を工夫している ○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 自立した生活を送るために、利用者一人ひとりが必要とする情報を、提供している ○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 周囲の人との関係づくりについての支援を行っている ○非該当</td> </tr> </tbody> </table>		評価	標準項目	●あり ○なし	1. 個別の支援計画に基づいて支援を行っている ○非該当	●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりに合わせて、コミュニケーションのとり方を工夫している ○非該当	●あり ○なし	3. 自立した生活を送るために、利用者一人ひとりが必要とする情報を、提供している ○非該当	●あり ○なし	4. 周囲の人との関係づくりについての支援を行っている ○非該当
評価	標準項目										
●あり ○なし	1. 個別の支援計画に基づいて支援を行っている ○非該当										
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりに合わせて、コミュニケーションのとり方を工夫している ○非該当										
●あり ○なし	3. 自立した生活を送るために、利用者一人ひとりが必要とする情報を、提供している ○非該当										
●あり ○なし	4. 周囲の人との関係づくりについての支援を行っている ○非該当										
評価項目1の講評 個別支援計画に「ゆうゆう」と暮らすことをめざす働きかけを反映して支援している 利用者支援は個別支援計画に基づいて実施しており、作業面・生活面の両面での支援目標を定めている。事業所は利用者地域の中で自分らしく「ゆうゆう」と暮らせるように環境整備をすることを理念としていることから、個別支援計画では作業面・生活面における具体的な支援を明示し、それに沿った支援としている。例えば利用者が作業に集中して取り組むことができるように、個別支援計画の中で「職員が個別に付き添い、『参加できた』の経験を積み重ねていく」といった支援を立て、利用者と職員が共通目的を意識することで実現に繋いでいる。 利用者の個性に応じたコミュニケーション方法で、職員との意思の疎通は良好である 利用者の障害特性や個性、こだわりを踏まえてコミュニケーション方法を工夫しており、写真カードを使って次の動作を説明したり、筆談を行うことや個別のスケジュールボードを作成するなどしている。また、毎月の給料支払いでは、施設長による各利用者にコメントを記した書面を添えていて、ルビ付きはもとより、個々の利用者に即した内容であるなど、心に届く文章である。個別支援計画の中でも「カードを(職員に)渡すことで要求が伝わったことを体験が持てるようにする」などとし、各場面で利用者と職員の関係性が良好になるように工夫している。 職員や周囲の利用者との関係性が構築できるように社会体験活動を取り入れている 職員は日頃から、利用者の意思を尊重した上で、利用者が周囲の人たちとよい関係性を持てるように働きかけを行っており、事業所として社会体験活動を取り入れている。この活動にはコミュニケーションチームをはじめ運動チームがあるが、いずれも活動を通じて周囲の人を知ったり、公共の場を知って生活に活かすという意味を持っている。時には社会体験プログラムとして遠出しており、朝の集合から目的地での散策、施設に戻る流れの中で仲間としての関係を意識したり、また体育館で運動することなどで本人が周囲の人との距離感が身にくくようにしている。											
2 評価項目2 利用者が主体性を持って、充実した時間を過ごせる場になるような取り組みを行っている 評点(〇〇〇)・非該当1 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 利用者一人ひとりの意向をもとに、その人らしさが発揮できる場を用意している ○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 事業所内のきまりごとについては、利用者等の意向を反映させて作成・見直しをしている ○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 室内は、採光、換気、清潔性等に配慮して、過ごしやすい環境となるようにしている ○非該当</td> </tr> <tr> <td>○あり ○なし</td> <td>4. 【食事の提供を行っている事業所のみ】 利用者の希望を反映し、食事時間が楽しいひとときになるよう工夫している ●非該当</td> </tr> </tbody> </table>		評価	標準項目	●あり ○なし	1. 利用者一人ひとりの意向をもとに、その人らしさが発揮できる場を用意している ○非該当	●あり ○なし	2. 事業所内のきまりごとについては、利用者等の意向を反映させて作成・見直しをしている ○非該当	●あり ○なし	3. 室内は、採光、換気、清潔性等に配慮して、過ごしやすい環境となるようにしている ○非該当	○あり ○なし	4. 【食事の提供を行っている事業所のみ】 利用者の希望を反映し、食事時間が楽しいひとときになるよう工夫している ●非該当
評価	標準項目										
●あり ○なし	1. 利用者一人ひとりの意向をもとに、その人らしさが発揮できる場を用意している ○非該当										
●あり ○なし	2. 事業所内のきまりごとについては、利用者等の意向を反映させて作成・見直しをしている ○非該当										
●あり ○なし	3. 室内は、採光、換気、清潔性等に配慮して、過ごしやすい環境となるようにしている ○非該当										
○あり ○なし	4. 【食事の提供を行っている事業所のみ】 利用者の希望を反映し、食事時間が楽しいひとときになるよう工夫している ●非該当										

評価項目2の講評		
利用者が自らの可能性を広げる選択ができるように約20種の作業を設けている 受託・受注作業及び創作活動、クッキング業務、カフェ運営など多様に設けられており、その作業数は約20種類に及ぶ。受託・受注では、メール交換、清掃、牛乳パック回収、ポストイング、封入・封かんなどであり、創作活動は組みひも、陶芸、アートなどである。また、事業所事業を支える大きな柱であるクッキング事業では、カフェで販売する料理各種の仕込みとジェラートなどのスイーツ製作がある。また、生活介護事業を展開する分場(しごと場大好き国領)ではクラフト製作や受注作業であるなど、利用者の意向や適性に応じて選択できる環境である。 利用者主体の朝・夕のミーティングの実施で、みんなで話し合うことが定着している 事業所では朝・夕の利用者ミーティングが定着しており、発言することや意見交換することが習慣化している。ミーティング開催では利用者間で役割分担ができており、進行役、節約について説明する節約大臣、休みの利用者を報告する係などがある。これらの役目は、前日の帰りのミーティングにてやりたい人が申し出て決まっている。利用者は話し合ったり、決めていくことが身についていることもあり、昼食休憩時のパソコンの利用について、出勤時に希望時間を申告して調整するなどみんなで話し合っ合意し、定めたルールを自律的に守っている。 メンバー会議、利用者全員の清掃などを通じて「働く場」としての意識が醸成されている 朝・夕のミーティングとともに利用者が話し合うメンバー会議を必要に応じて開催し、生活全般の意見を出し合ったり、遠足の先やクリスマスのおしりなどについて話し合っている。その際、自分の気持ちを言語化することが不得手な利用者を置き去りにしないように職員が声かけするなどしている。また、作業終了後には全員で事業所内の清掃を行い、車イス利用者も降りて作業を担うなどしており、自分たちのしごと場であるという意識を強く持っている。昼食は配食サービスの日替わり弁当であり、利用者の喫食状況に応じてキザミ食対応とすることがある。		
3 評価項目3 利用者が健康を維持できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の健康状態に注意するとともに、利用者の相談に応じている	○非該当
●あり ○なし	2. 健康状態についての情報を、必要に応じて家族や医療機関等から得ている	○非該当
●あり ○なし	3. 通院、服薬、バランスの良い食事の摂取等についての助言や支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	5. 【利用者の薬を預ることのある事業所のみ】 服薬の誤りがないようチェック体制を整えている	○非該当
評価項目3の講評		
利用者の健康管理のために集団健診を実施し、日常的には家族と連携して対応している 利用者の健康管理として、年に1回、健康診断専門の検診クリニックによる作業所での集団健診を実施している。1階作業室に健診ブースを設け、利用者は順番に検査を受けている。尿検査、身長・体重測定、血圧や聴力、心電図、医師による問診、レントゲン検査などであり、健診結果は家族に渡している。日々の利用者の体調把握は、連絡帳に書かれた家族からの申し送りなども踏まえながら職員による様子観察を行っている。生活介護には看護師の配置があり、家族からの健康相談などにも対応している。歯みがき指導などは未着手なので検討が待たれる。 PTによる機能訓練の取り組みや、服薬支援の見直しは服薬管理の効果を発揮している 毎週の活動の中に健康作り活動とリハビリを設けている。リハビリは理学療法士(PT)が月に1回来所して機能訓練を行っており、PT指導に基づいて職員が実施することもある。言語聴覚士が月に1回来所しており、看護師によるストレッチ体操やマッサージなども行われている。薬の預かりをしていて、今年度、手順が見直されている。登所時に窓口で預かってチェックし、専用のポシェットに保管する。ポシェットは薬担当の職員が持ち、昼食時間に個々の利用者に渡し、服薬済みを確認した後に薬ボードに空き袋を貼る。空き袋は連絡帳に挟んで返している。 利用者の「健康シート」で、急変時には「事故対応マニュアル」に沿って対応している 利用者の基本的な健康情報は、フェイスシート及びアセスメントシートなどで把握しているが、看護師による「健康シート」が利用者の健康状態の変化を見える化している。シートには、緊急連絡先はもとより利用者の障害名、既往歴、常用薬、発作時の対応、医療機関、家族からの配慮要項などが一覧化されており、3年に1回程度の見直しを計画している。利用者の急変時対応では搬送の際に健康シートの持ち出しも考えられ、その際の手順は「事故対応マニュアル」に添っている。他に利用者に応じて「発作観察の要点」では、発作時の対応を記録にしている。		

4	評価項目4 利用者の意向を尊重しつつ、個別状況に応じて家族等と協力して利用者の支援を行っている 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>1. 家族等との協力については、利用者本人の意向を尊重した対応をしている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>2. 必要に応じて、利用者の日常の様子や施設の現況等を、家族等に知らせている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>3. 必要に応じて家族等から利用者・家族についての情報を得て、利用者への支援に活かしている</td> <td>☐非該当</td> </tr> </tbody> </table> 評価項目4の講評 事業所の歴史はファミリーとの協働で作ってきたものであり強い信頼関係を構築している 事業所は家族とともに立ち上げ、当初は小規模作業所であり、現在は30年を超えている。任意団体による無認可事業所から現在の社会福祉法人に変わる過程では、家族と事業所は協働して課題を解決してきた経緯がある。相互の信頼関係を象徴するように、家族の集まりを「ファミリー」と呼び、月に1回開催している。加えて、利用者支援には家族との連携が重要であると隔月の懇談会を実施している。ファミリーでは事業の進捗状況を説明し、同時に施設長が意見を聞いている。懇談会では、支援職員と家族とのグループ討議などを行い関係性を深めている。 家族との連携は連絡帳で行っており個別支援計画の定期的な見直し時には面談している 家族と事業所のやり取りは連絡帳で行っており、健康状態や在宅での様子を把握している。連絡帳に寄せられた質問や疑問をはじめ、日常的に電話やメールなどで問われることがあれば、どのような質問内容であっても即日に回答をするようにしているなど向き合う姿勢が顕著である。個別支援計画の6カ月ごとの評価・見直しの際には、家族との面談を実施している。近年では高齢家族もいることから、面談を通じて家族に社会資源が必要だと判断すれば、訪問介護事業所やケースワーカーなどとケース会議を開催することもあるなど踏み込んだ支援をしている。 任意団体の「支える会」「こぶしの会」がありさらに「きょうだいの会」を発足させた 事業所を側面支援する家族などが作る「こぶしの会」「支える会」があり、支える会はカフェ開設時に市民債権を募り開設資金を集めるといった活動を行ってきた歴史がある。また、長年にわたって事業所が開催する大好き市や餅つき、コンサートなどのイベントに人力の協力を行う応援団でもあり、こぶしの会はカフェで提供する大量の菓味のラッキョウを漬け込んで協力するなど支援の形は多様である。新たに「きょうだいの会」を発足させており、家族の形や意識が変化する時代を迎え、将来にわたって利用者を取り巻く支援者の輪を作り出そうとしている。	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 家族等との協力については、利用者本人の意向を尊重した対応をしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 必要に応じて、利用者の日常の様子や施設の現況等を、家族等に知らせている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 必要に応じて家族等から利用者・家族についての情報を得て、利用者への支援に活かしている	☐ 非該当
評価	標準項目												
☒ あり ☐ なし	1. 家族等との協力については、利用者本人の意向を尊重した対応をしている	☐ 非該当											
☒ あり ☐ なし	2. 必要に応じて、利用者の日常の様子や施設の現況等を、家族等に知らせている	☐ 非該当											
☒ あり ☐ なし	3. 必要に応じて家族等から利用者・家族についての情報を得て、利用者への支援に活かしている	☐ 非該当											
5	評価項目5 利用者が地域社会の一員として生活するための支援を行っている 評点(〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>1. 利用者が地域の情報を得られるよう支援を行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>2. 利用者が地域の資源を利用し、多様な社会参加ができるよう支援を行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> </tbody> </table> 評価項目5の講評 利用者が地域で安心して暮らせるように、作業連絡会で地域の交流機会を広げている 法人は事業所をはじめ分場(国領)、グループホーム2カ所を調布市内で運営しており、障害を持った利用者が安心して地域で暮らせる環境を生み出してきた。また、市の福祉作業所連絡会の立ち上げ当初から中心的役割を担い、連絡会が関わる事業は年間20を超えていて、それらの事業に参加する利用者の社会的視野は広がっている。多様なイベントに利用者が参加することで市民と交流する機会が増え、人々の障害に対する理解をすすめて、共生社会の実現へと繋がっていく。利用者が地域で自分らしく生きることが地域を拓くことになると考えている。 年間を通じて地域を巻き込んでいくイベントや「ほりでいぶん」の取り組みもある 事業所では、日々の仕事でポスティングやメール交換、各所の清掃作業などがあり、他に社会体験活動で公共交通の利用と買い物実践などもあってフットワーク良く地域に馴染んでいる。また、事業所主体で地域の人々に呼びかけて行うイベントなども開催されている。大好き市をはじめ、コンサート、餅つき大会があり、いずれも市民参加型事業である。餅つき大会では、出来上がった餅を近所に配るなどして喜ばれている。自立支援協議会主催で「ほりでいぶん」の取り組みがあり、事業所で企画したスポーツ観戦などに利用者が参加している。 カフェ大好きはワークショップなどの開催で地域の人々が集う「場」として定着している 事業所とは別の場所にある「カフェ大好き」はB型利用者が接客、配膳、清掃、洗い物などを行っている。駅近くの店舗は1996年にオープンしており、近年、老朽化した机やイスをリニューアルして地域の人々が集まる「場」としての機能を強化している。マナー研修を受けて仕事を行う利用者の接客は礼儀正しく、笑顔での接客は店に馴染んでいる。店内の壁をギャラリーとして貸し出したり組みひものワークショップを開催することもある。カフェで人気のスープ類、ジェラート、焼き菓子などは事業所の厨房で調理チームが作っていて連携も良い。	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 利用者が地域の情報を得られるよう支援を行っている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 利用者が地域の資源を利用し、多様な社会参加ができるよう支援を行っている	☐ 非該当			
評価	標準項目												
☒ あり ☐ なし	1. 利用者が地域の情報を得られるよう支援を行っている	☐ 非該当											
☒ あり ☐ なし	2. 利用者が地域の資源を利用し、多様な社会参加ができるよう支援を行っている	☐ 非該当											

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

6 評価項目6		
【生活介護】日常生活上の支援や生活する力の維持・向上のための支援を行っている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 一人ひとりの目的に応じた創作的活動、生産活動やその他の活動の支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 自分でできることは自分で行えるよう働きかけている	○非該当
●あり ○なし	3. 食事、入浴、排泄等の支援は、利用者の状況やペースに合わせて行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 【工賃を支払っている事業所のみ】 工賃等のしくみについて、利用者に公表し、わかりやすく説明している	○非該当
評価項目6の講評		
小集団での活動が向いている利用者は事業所分場で多様な取り組みを展開している 生活介護の利用者は全体で20名であり、多機能事業所(しごと場大好き布田)で活動する利用者と、集団で過ごすことが苦手な利用者が過ごす生活介護専用の分場を本体建物とは別に設けている(定員7名/しごと場大好き国領)。作業内容は施設館メール、ポスティング、清掃など本体事業所と同じものの他に独自の作業や活動を取り入れている。作業ではクラフト製作、アクセサリ作りがあり、小規模の特徴を活かして、外出活動が盛んである。ウォーキング、カフェ大好きを組みひも展など他に本体事業所と合流してハロウィンを行うなど多様である。 分場では周辺の掃除を日課にしており、できることは自分で行うように働きかけている 分場では朝一番に、利用者が分場周辺を清掃するのが日課となっている。事業所は地域の人たちに愛されることが大切であるという法人の考えに基づいて、障害者施設の原点とも言える実践をしている。また、利用者の生活力向上や自分で状況判断して行動できることが身につくように、月曜日の午前中は調理実習を行っている。実習では、全員でその日の昼食メニューを決め、買い物に行き、調理、片づけまで協力して行うものであり、利用者にはスケジュールボードにて時間や手順を示し、利用者が状況を把握し役割を持てるようにしている。 事業所は利用者をB型利用者と区別することなく工賃の支払いをしている 事業所は、生活介護利用者に対して、できないと決めつけることはせずに、B型利用者と同等に作業を担ってもらっている。事業所の多様な作業の中から、その人にふさわしい仕事を選んでおり、図書メールやポスティングなどでは、B型利用者と生活介護利用者が協働して行うことも珍しくない。ただ、カフェの仕事だけは生活介護利用者は参画していない。工賃はB型と同様に「通所工賃規定」に基づいて支払っており、施設長からは個々に宛てた給料コメントの書面を添えている。今後、利用者の可能性として、芸術部門に挑戦する価値を見出している。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

12	評価項目12 【就労継続支援B型】就労の機会の提供や、知識の習得及び能力向上のための支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 自発的に働きたいと思えるような取り組みを行っている		○非該当
	●あり ○なし	2. 働くうえで、利用者一人ひとりが十分に力を発揮できるよう支援を行っている		○非該当
	●あり ○なし	3. 工賃等のしくみについて、利用者に公表し、わかりやすく説明している		○非該当
	●あり ○なし	4. 受注先の開拓等を行い、安定した作業の機会を確保できるよう工夫している		○非該当
	●あり ○なし	5. 商品開発、販路拡大、設備投資等、工賃アップの取り組みを行っている		○非該当
評価項目12の講評				
利用者が働くことと楽しむことをバランス良く生活の中に取り入れられるようにしている 週課があり、1週間における午前と午後の作業内容が組み立てられている。曜日ごとに複数の作業が提供されていることで、利用者が自発的に選べる環境であり、十分に力を発揮できるように作業の細分化や工程表やスケジュールボードなどを活用している。また、生活を楽しむことも欠かせないと、余暇活動などを積極的に取り入れている。遠足、一泊旅行といった取り組みの他に、音楽活動や四季を感じられるクリスマス、なつまつり、成人式などを設けている。成人を祝う会では、調理から手作りのホールケーキがプレゼントされるなど仲間を祝う風土がある。 一人ひとりの利用者に、施設長が作成した毎月の給料コメントを待つ利用者も多い 工賃は「通所工賃規定」に基づいて支払っており、規定では基本的な考えとして基準の時間単価と経験年数に基づく昇級などを明示し、加えて特別手当、期末手当、皆勤手当、欠勤の扱いなどを示している。欠勤などの扱いでは、利用者の有給休暇20日を超えて通所しない時の工賃支払いについて明記している。また、工賃規程には別表があり、勤務年数と本人年齢をクロスした時給設定が記されている。毎月工賃支給の際には、施設長自らが作成したコメント書面を個々の利用者に出しており、時には利用者からリクエストがあるなど好評である。 新たな受注作業の取り組みやカフェの商品開発などが工賃アップに繋いでいる 毎年新たな受注作業に取り組んでおり、特に工賃が安定している行政関係の作業は積極的に取り組んで行く方針である。清掃活動では利用者の仕事に取り組む意識は高く、積み重ねの中で確実にスキルを身につけており、安定して仕事になっている。一方、カフェでは土日の営業の実施、メニュー開発、新製品の発売などを着実に進めており、カフェの売りでもあるジェラートや焼き菓子などは販売先を増やしている。時には利用者と職員が他のカフェ巡りをして、カフェ運営に活かすなどの工夫がある。収益が増え、新しい算出の影響もあって工賃がアップしている。				

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-1-1	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している
タイトル①	福祉作業所等連絡会との連携が法人の福祉を耕す原点となっている	
内容①	施設長は35法人67事業所が加盟する福祉作業所等連絡会の運営に設立時から加わり福祉活動に取り組んでいる。連絡会は障害者の福祉を推進するため福祉作業所等が連携して受注や販路拡大を共同で行うことに取り組み、事業所も企業や行政からの受注に繋げている。連絡会は市、社協、親の会、福祉団体等の窓口役を果たし、ガイドブック「わくわーく」を発行して商品やサービスを紹介し、障害者を取り巻く地域や暮らしについて情報を発信している。連絡会を通しての活動や出会いが利用者の「ゆたかにゆかいにゆうゆうと」に繋がる機会となっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-1-1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している
タイトル②	ホームページに動画を掲載し、作業や余暇活動など内部の様子がわかるよう工夫している	
内容②	事業所のサービス情報は会報「耕す会」「大好き」を通じて発信しており、法人ホームページからも作業やイベントの様子を写真付きで紹介している。ホームページには、事業所、分場、カフェ、グループホームの4種類の動画が掲載されており、これらの動画は家族からの「内部の様子が知りたい」との要望がきっかけとなり制作された。動画では「いかにわかりやすく、ありのままを伝えられるのか」を重視したとしており、室内の雰囲気や、調理・清掃作業・自主製品・アートなどの作業・余暇活動の様子を紹介し、職員の様子も伝わるような内容になっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	【生活介護】日常生活上の支援や生活する力の維持・向上のための支援を行っている
タイトル③	生活介護利用者を働く仲間として、B型利用者と同じ工賃規程に基づき支払っている	
内容③	事業所は、生活介護利用者に対して、できないと決めつけることはせずに、B型利用者と同等に作業を担ってもらい、工賃はB型と同様に「通所工賃規程」に基づいて支払っている。事業所では多様な作業の中から、個々の利用者にふさわしい仕事を選んでおり、図書メールやポスティングなどでは、B型利用者と生活介護利用者が協働して行うことも珍しくない。利用者同士は働く仲間としてお互いを認めており、関係性も良好である。仕事の場面をはじめ余暇活動などでも、目の前の仲間ができないことがあれば、当たり前のように助け合う風土がある。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	ファミリー(家族会)と協働で育ててきた事業所「しごと場大好き」は、家族の意識や時代の変化の中、新たな繋がりを作り出そうとしている
	内容	法人調布を耕す会は家族とともに立ち上げ、30年以上、一貫して家族と協働して課題を解決してきた。「ファミリー」と呼ばれる家族会は相互の信頼関係を象徴している。「しごと場大好き」は、利用者支援には家族との連携が不可欠と毎月の家族会や、隔月で懇談会も実施している。また、家族も参加する「こぶしの会」「支える会」は、長年にわたって事業所が開催する各イベントの運営に協力を惜しまない応援団でもある。家族の形や意識が変化する時代を迎える中、「きょうだいの会」を発足させるなど利用者・家族の新たな繋がりを作り出そうとしている。
2	タイトル	利用者の健康管理に事業所独自で集団健診を実施すると共に、専門職による機能訓練など行う事で利用者の健康維持に努めている
	内容	事業所では、年に1回、作業所敷地内で、健康診断専門の検診クリニックによる、尿検査、身長・体重測定、血圧や聴力、心電図、医師による問診、レントゲン検査などの集団健診を実施している。日中活動に健康作りやリハビリを取り入れており、リハビリは理学療法士(PT)が月に1回来所して機能訓練を行っている。PT指導に基づいて職員が実施することもある。看護師によるストレッチ体操やマッサージなどを行ったり、看護師は、「健康シート」に緊急連絡先、障害名、既往歴、常用薬、発作時の対応、医療機関をまとめるなど健康管理に努めている。
3	タイトル	事業所はカフェの運営やイベント開催などを通じて、利用者が地域に交じり、ゆーゆーと生きられることが共生社会の実現であると考えている
	内容	法人は事業所をはじめ分場(国領)、グループホーム2カ所の運営を通じて、障害を持つ利用者が安心して地域で暮らせる環境を作り出してきた。また、「カフェ大好き」はB型利用者が接客、配膳などを行っていて、地域の人々が集まる「場」となっている。店内の壁をギャラリーとして貸し出したり、ワークショップを開催するなど、日常生活の場面で地域の人々に障害への理解を進める取組をしている。加えて事業所主体で地域の各種イベントを開催しており、利用者が地域住民と交じって市井で自分らしく生きることが共生社会の実現に繋がると考えている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	次世代人材の育成を図るため、個々の職員についてのキャリアパスと育成計画の策定が期待される
	内容	事業所は小規模であるため資格や勤続年数に応じた昇給の仕組みや人事評価の制度はない。人材を育成するためリモート研修を導入して研修機会の確保に努め、自己啓発研修への支援も行っている。一方、個々の職員が将来目指す職位や業務に到達するための指針となるキャリアパスや人材育成計画は策定されていない。施設長に業務や権限が集中し、家族からは「施設長が倒れたら大丈夫だろうか」という不安の声がある。次世代管理職の育成を含めて小規模事業所に適した人事評価制度の整備と研修計画の基礎となる人材育成計画の策定が期待される。
2	タイトル	実際に発生が予測されるリアルな事態を想定した事業継続計画(BCP)に基づいた実地訓練が期待される
	内容	事業所は感染症BCPとは別に自然災害BCPを策定している。BCP推進チームにより可能な限り必要な業務が提供できる体制を目指して読み合わせ訓練を実施しているが、実際の事態を想定した訓練は行われていない。職員の自己評価では安全管理意識は高いが、BCPについて理解と自分の役割に応じた対応についての評価は低い。事業所は行事を通して地域との繋がりがあり福祉避難所となっている。職員数が限られるなか地域の協力も得て利用者の帰宅困難、ライフライン停止等の想定される事態に対応した訓練の実施によるBCPの充実が期待される。
3	タイトル	ICT導入により、業務の効率化を図っているが、地域や外部人材の協力を求められることで、さらなるシステム開発の推進が期待される
	内容	事業所では、記録や情報共有のためのICT導入により業務の効率化が進み、職員の負担軽減につながった。また、利用者支援に注力できるようになったことで、サービスの質の向上にもつながったと考えられる。今後、さらなる効率化を目指すとしているが、そのためにはシステム開発の全体的な構想が求められる。しかし、日々の業務に追われる職員や地域活動にも積極的に関わる管理者が担うのは難しいのが現状といえる。今後は、事業所の強みである緊密な家族関係や多岐にわたる地域ネットワークを活かし、地域や外部人材を活用した取り組みが求められる。